

現在の盛岡市に生まれ、函館、札幌、小樽、釧路、東京と、漂泊の中に自己を見つめ続け、その生涯を現在の文京区で閉じた石川啄木。終の棲家となった東京への最後の上京から110年、26歳で夭逝した若き天才歌人の、ほとぼしる情熱と故郷への想いを辿る――。

上京110年

「啄木とぶんきょう―たかく飛んだ! 26年―より」

啄木漂泊の旅展

2018年4月21日(土)～7月8日(日)

もりおか啄木・賢治青春館 2階展示ホール

観覧
無料

■観覧時間／午前10時～午後5時 ■第2火曜日休館(5月8日、6月12日)

当館関連事業等の開催に伴い、時間閉鎖をする場合があります。

- 主催：(公財)盛岡観光コンベンション協会 もりおか啄木・賢治青春館
○共催：盛岡市
○後援：文京区・(公財)盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館 盛岡てがみ館・岩手日報社
NHK盛岡放送局・IBC岩手放送・テレビ岩手・めんこいテレビ・岩手朝日テレビ
エフエム岩手・盛岡タイムス社・岩手ケーブルテレビジョン・朝日新聞盛岡総局
毎日新聞盛岡支局・読売新聞盛岡支局
○協力：文化地層研究会
○資料提供：石川啄木記念館・盛岡てがみ館・森鷗外記念館・函館市中央図書館啄木文庫



国指定重要文化財



もりおか
啄木・賢治青春館

〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-25
TEL&FAX 019-604-8900
<http://www.odette.or.jp/seishunkan/>

本展は、平成26年度文京区主催で実施された石川啄木終焉の地歌碑建立記念事業「啄木とぶんきょう―たかく飛んだ! 26年―」の構成を基にリバイバル開催するものです。盛岡市と文京区は平成24年に「文化交流協定」を締結し、石川啄木生誕の地と終焉の地の縁から、啄木の魅力を伝える「啄木学級」等の事業を毎年行っています。

上京110年「啄木漂泊の旅」展

～啄木とぶんきょうーたかく飛んだ！26年ーより～

進取の気性に富み、故郷渋民では神童と呼ばれた啄木。盛岡中学では文学に目覚め、文芸雑誌「明星」に短歌を発表、のちの妻節子とも出会う。文学で身を立てようと上京するも精神的疲労と病に侵され帰郷。挫折と困窮、自身との葛藤に喘ぐ中、やがて啄木は北海道に新天地を求めた一。

函館から札幌、小樽、釧路、そして東京へと続く苦悶の日々。“旅”の途中、精神の孤独の中で夢見た理想とは。文芸創作の源流を成すこの「漂泊の旅」から東京小石川（現在の文京区）での終焉に至るまで、啄木が新しい光を世に放つ軌跡をパネルで紹介する。



盛岡高等小学校1年の啄木と従兄たち

盛岡・渋民

ふるさとの山に向ひて

言ふことなし

ふるさとの山はありがたきかな



ユニオン会同人と啄木

函館

函館の青柳町こそかなしけれ

友の恋歌

矢ぐるまの花



白亜の殿堂、盛岡中学校の校舎

小樽

こころよく

我にはたらく仕事あれ

それを仕遂げて死なむと思ふ

釧路

さいはての駅に下り立ち

雪あかり

さびしき町にあゆみ入りにき



啄木と首宿社同人

東京

ふるさとの訛なつかし

停車場の人ごみの中に

それを聴きにゆく



小石川区久堅町の借家跡「石川啄木終焉の地」



喜之床（本郷区弓町）

石川啄木「一握の砂」収蔵 写真:石川啄木記念館提供

ギャラリー
トーク

5月19日(土) 午後2時～3時30分 予約不要

当館2階展示ホール ※先着50名様程度の着席を予定しております。

《ゲスト》 外岡秀俊 氏

プロフィール…1953年札幌生まれ。作家、ジャーナリスト。元朝日新聞東京本社編集局長。東京大学在学中に石川啄木をテーマにした小説「北帰行」で文藝賞受賞。東日本大震災に際しては、啄木と賢治の世界から震災を考察するなど、現地ルポによる関連著書を発表している。

